

学校だより 藤の木

海を知らぬ
少女の前に麦藁帽の
われは両手を広げていたり
寺山修司

発行者 横浜市南区大岡4 44-1 電話 045(714)2817 藤の木中学校 下山 和美



「大変だ！！」

過日あるテレビ番組で外国人のスピーチ大会が放送されておりました。その中で日本に来て7年になるというイスラエル?の女性のスピーチは大変印象深いものでした。内容は「日本人は『大変』という言葉を使いすぎるのではないか」という提起でした。自分の国では「大変」という言葉は未来に夢も希望も抱けず生存を脅かされる、或いは明日の命をもしれない絶望的な状況で使われる言葉だと言うのです。ところが、日本人は所かまわず「大変だ」「大変だ」と叫ぶ。こんなに豊で未来が保障されている国で何が「大変」なのだろう??と言うのです。

自分の国は貧しいし本当に厳しい状況に置かれている人が沢山いる。そんな状況でも人々は決して「大変」という言葉は口にしない。明日を信じ未来を見つめて必死に生きているというのです。そして自分は本当に厳しい状況にある自国のために貢献できる日を夢見て日本で勉強をしている。日本に来てから今までに何度かお金がなかったり食べ物もなかったりして苦しいことも沢山あったけれど決して「大変」と思ったことはなかった。なぜなら私には未来という夢があるから。これからも苦しいこともあるだろうけれど決して「大変」と思わず夢に向かっていきたい。

概略このようなことでした。

この方のスピーチを聞きながら自分の言葉の中にいとやすく「大変」という言葉が何の違和感もなく口をついて出ることになりました。歴史や国柄、そして民族というように置かれた環境の中で考え方とか思想というものが生まれてくるのでしょうか、国際化の時代にあって安直に使える言葉ではないことを教えられました。よく「平和ぼけ」などという人もいますが、平和で豊かであるからこそ気をつけなければならないことだと改めて肝に銘じたことでした。

運送会社を営んでいる中学時代の友人がいます。社員が「大変だ」「大変だ」と言うと朝会等で「『大変』と言うのは大きく変化したり変化させたりすることをいうのだ。大きな変化も起こさずに『大変』『大変』というな！！」と。

ふーん なるほど……………。

「前期期末テストが終わり、文化祭の準備に！！」

夏休みが終わり涼風が立つ季節になりました。少し急ぐと汗が流れますがあの暑かった夏に比べるとやはり凌ぎやすい季節になったことにホッといたします。そんな季節の巡る狭間に生徒にとってはちょっと苦しい期末テストが行われました。出来映えはどんなものだったのでしょうか。廊下で先生方を捕まえて一生懸命出来高を聞く生徒や平均点は何点かと先生に執拗なまでに食い下がる生徒など様々です。今も昔も変わらない中学生の試験後の風景であり微笑ましい光景でもあります。

いま子供たちの学習意欲の問題が大きく取り沙汰されています。本校でも小学校の先生や教育委員会の先生方をお呼びして研究授業を展開し、その有り様について研究しているところです。いずれにしても授業が教室だけで完結することがあってはならないのは事実だろうと思います。教室から飛び出して社会に生きて働く力となって始めて授業(学習)が生きるのだと思います。そういう意味で子供たちの意欲の問題は大きな課題の一つといえます。

話がそれましたが、そんな学習を生かす場としての文化祭の準備が始まりました。朝から教室やホールに歌声が響き何とも心地よいスタートを切れる日が続いております。中学生は長い人生の中でのわずか3年間、でもその3年間は人生を大きく左右するような3年間でもあります。中学生の時期にしかできないことが沢山あります。ぜひ今この時を大事に自分を磨き、またそれを財産として宝箱に入れていって欲しいと考えています。

